

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201239		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホーム サンライフ堀越		
所在地	青森県弘前市大字柳元293-1		
自己評価作成日	令和3年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内にこども園が隣接しており、日常的に園児と交流を行うほか、季節行事も一緒に行う等、積極的な世代交流を特徴としている。ホーム内は入居者の暮らしやすい空間をモットーとし、無理強いせず自分らしさを持って生活できるよう支援している。しかし、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全ての交流を中止せざるを得ない状況にある。こども園の園児が外を散歩したり、外遊びをしている様子を眺めて癒しをいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は田園に囲まれているが雄大な岩木山の四季折々の風景を感じることができ、「あずましく、自由に、毎日楽しく」の理念に沿った生活が送ることができる環境である。コロナ禍で地域との交流は制限されているが、利用者と家族の思いを大切にし、希望が叶えられるように支援し、利用者と職員がみんな穏やかで楽しく生活している。また、法人の特性を活かして、重度化や終期末、看取りを行っており、最期まで安心して過ごすことができる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方々と交流を持ち」と理念にあり、基本理念は朝の申し送り時に全職員で唱和しながら共有し、実践している。	「あずましく・自由に・毎日楽しく」という理念を掲げ、朝の申し送り時に理念を確認している。また、ホールと事務室等に掲示し、全職員がいつも理念を念頭に置いて業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館やこども園と交流しており、行事のときは協力し合っている。しかし、昨年からコロナ禍のため、交流は中止せざるを得ない状況である。	公民館や児童館、小学校、こども園と交流があり、地域の一員として積極的に地域行事に参加している。地域との交流を通じて、利用者が喜びを感じることができるよう支援している。現在はコロナ禍のため、以前のような交流は難しいものの、散歩した際挨拶をしたり、遠くからこども園の行事を眺める等している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭に作品を出展したり、サロンを開催して地域住民と交流する等して、理解を得ている。しかし、現在はコロナ禍のため中止としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、事業報告に対して意見をいただいている。結果を職員全体で共有して、サービスに活かしている。昨年からコロナ禍のため、書面で行っている。	コロナ禍のため運営推進会議は書面開催とし、メンバーには書類を郵送して意見やアドバイスをいただき、今後のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者状況や連絡事項をメールする等して、連携している。コロナ禍前は、運営推進会議に出席していただき、情報提供をしていたが、現在は資料を送付している。	自己評価と外部評価の結果、目標達成計画を提出して報告をしている。広報誌も日々の取り組みを伝える機会として配布して理解を得ている。現在はコロナ禍のため、メールを中心に情報共有を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯のため、法人の方針でやむを得ず施錠を行っている。身体拘束については、極めて危険がある場合以外は行っておらず、マニュアルを通じて理解し、一人ひとりの状態を見極めながら寄り添ったケアに努めている。	全職員が身体拘束を行わないという共通理解のもと、身体拘束の内容や弊害について、内部・外部研修や法人全体の勉強会で理解を深め、実践している。利用者の安全を第一に考えて身体拘束を行うことはあるが、その際は家族へ理由や方法、期間等を説明して同意をいただいてから行い、経過観察を記録に残す体制となっている。また、全職員で身体拘束の話し合い(継続、終了等)を適切に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修等に参加し、報告しながら職員全体で理解を深めている。また、入浴時の身体の状態や日常生活の中での変化に注意するほか、言葉遣い等を職員間で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加して理解を深めている。成年後見制度を利用している入居者がいるため、全職員で理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書と契約書を使って説明し、同意を都度もらいながら理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、いつでも意見を投稿できるようにしている。また、年1回は家族アンケートを実施し、意見を職員間で検討して改善に繋げている。	年1回家族アンケートを実施している。利用者には日々寄り添い、些細な事でも話せる関係を構築している。玄関に意見箱を設置したり、相談苦情窓口をホーム内に掲示するほか、重要事項に明記して入所時に説明している。毎月、担当職員が自筆の写真付き手紙で様子を家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や職員会議の中で、業務に関して等、意見を提案できるように工夫している。	日頃から意見や提案を出しやすいように、管理者とのコミュニケーションを大切にしている。意見や提案があった際は、すぐその場で話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務規程等は法人から年1回説明しており、いつでも閲覧できるところに置いている。将来の目標等を確認し、資格取得等は達成できるよう受験料等の支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量やニーズに合うように研修計画を立て、全職員に研修へ参加させている。昨年からコロナ禍のため、研修はほぼ中止となっていて参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム内で内部研修を実施し、それぞれの良い点を取り入れながらサービス向上に努めている。昨年からコロナ禍のため、ホーム内で勉強会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前からの生活を継続できるように、家族や居宅介護支援事業所から情報をもらっている。入居者が安心していただけるよう、会話を通してさり気なく本人の希望や不安を理解し、サービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時点で、家族の不安等を聞き、小さな事でも相談できる雰囲気作りを行っている。また、要望等については、随時受け付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時点で、家族の要望を確認し、居宅介護支援事業所等にも相談しながら対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能や趣味、嗜好を取り入れ、共に暮らしていける関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない事は家族に相談して協力していただき、共に支援していくよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活が継続できるように、美容院等は入居者の要望を聞きながら支援をしている。	コロナ禍で自由に出かけられないが、市内の感染状況を確認しながら、感染対策を行って美容院や買い物等への外出を個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係や性格等を把握し、無理強いせずレクリエーション活動や館外活動への参加を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の介護サービスの利用について確認する等、必要に応じて相談等の対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望を聞き、可能な範囲でかなえられるように援助をしている。どのようにすればできるか話し合っ検討をしている。	家族と関係者からの情報やアセスメントを参考にするほか、会話や表情から思いや希望を把握するように努めている。意思表示が難しい利用者には、手を握りながら寄り添い、利用者の視点に立ち、全職員で話し合いを行って検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方をサマリーや相談記録、フェイスシートで把握するようにしている。また、日頃の会話を通して把握する等している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言動等で状態を把握し、記録している。また、申し送り時に共有して把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来館した際に現状を報告して、要望や方法を確認している。カンファレンスの際に、職員が意見を出しやすい雰囲気を作って、良い意見があったら取り入れている。	介護計画作成時、アセスメントはもちろんのこと、関係者から情報収集を行っている。利用者や家族の希望を確認して作成しており、職員間で十分な話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングシートを記入しながら支援し、結果を報告して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の主介護者が家族として支援できなくなったときは、他の家族に報告して、市役所や包括支援センター等と相談しながら手続き等を協力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	さまざまな地域のサービスを把握し、入居者の希望を取り入れて支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続して受診できるように支援している。また、入居者の状態に合わせて家族と相談しながら支援をしている。	希望する医療機関で受診できるように支援をしている。協力病院や訪問看護ステーションが24時間対応しており、状態変化時は往診してくれる等、利用者と家族は安心して適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を訪問看護師に報告・相談している。指示をいただきながら受診等の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、生活状況を報告している。退院時は、状態確認と説明を受けながら退院後について話し合いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書で重度化時の説明をし、同意をもらっている。重度化した場合は、こまめに家族に状況の説明を行い、方向性を確認しながら支援をしている。	重度化や看取り時の対応を明確にしている。利用者や家族と話し合いを行って希望を確認しながら意向に沿った支援を行っている。状態変化時には、再度希望や意向を確認する話し合いを行う等、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を2年に1度実施し、全職員が受講している。また、マニュアルを定期的に確認する等、意識的に適切な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回以上実施しており、6月には地震を想定した避難訓練を行っている。夜間想定した避難訓練には、地域の消防団に参加していただき、災害時には協力していただける関係となっている。昨年はコロナ禍のため、職員と入居者で行った。	火災や地震、水害等のマニュアルを整備している。夜間を想定した避難訓練を利用者と職員が一緒に行い、役割分担や避難経路、連絡体制を確認している。コロナ禍のため、訓練は地域住民と一緒にできていないが、災害時は地域住民から協力を得られる体制を整えている。訓練には消防署が参加し、避難誘導に対して具体的なアドバイスをいただいている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等を尊重し、決して否定しない言葉かけで対応をしている。	利用者が自分らしく生き生きと暮らしていけるように、穏やかな口調で人生の先輩として尊敬の意をこめた声かけを実践している。また、個人情報の取り組みに関する研修を行い、プライバシーに配慮したケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き入れられるよう問いかけ、納得して生活できるよう声かけ援助をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し、自身のペースで生活ができるように支援をしている。外に出てお花を見たい等の要望も都度支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマや髪染め等の希望があるときは、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日に好物を出すほか、日頃から嗜好を把握しながら献立に活かしている。入居者のできる範囲でお盆や食器拭き等を手伝っていただいている。	利用者の可能な範囲での食事の準備や後片付けを職員と一緒にいき、家庭的な食事となっている。現在はコロナ禍のため、職員と一緒に食べていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成しており、栄養バランス等を管理している。食事量と水分量は毎食把握している。誕生日等には嗜好に合わせて献立に組み入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯の洗浄を促し、できない入居者には援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録しながらトイレ誘導を検討したり、会議を開いて検討している。	パターンを把握することで適切な自立に向けた排泄支援を行っている。利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食時にヨーグルトを出している。こまめな水分補給や適度な運動の実施を働きかけ、個々に応じた対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入る順番やお湯の温度等、一人ひとりに合わせている。ゆっくり入浴をできるようにしたり、ユニットの入浴日以外でも希望があれば入浴できるよう支援をしている。	利用者一人ひとりの状況に合わせて、入浴や清拭、足浴シャワー浴等、個別に支援している。利用者の羞恥心や負担を理解して支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おおまかな1日のスケジュールはあるが、入居者のペースを尊重し、休息をとってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回お薬情報を確認し、ファイルを作成しながら薬剤師とも連携を図り、支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴・趣味等を取り入れ、役割を持って生活できるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で自由に外出できない状況が続いているが、感染予防対策を行ってドライブを実施している。	入所時のアセスメントや日常の会話の中から、馴染みの場所を把握している。気分転換になるようにホーム周囲の散歩にはいつでも出かけられるように職員が付き添っている。コロナ禍で外出行事は行っていないが、少人数でのドライブを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者については、いくら所持しているか把握をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を使いかけたいときは電話をかける支援を行っており、携帯電話を持っている入居者は、いつでも自由に電話をすることができる。また、手紙を書きたいときは支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、一定時間に温度・湿度を記入しながら管理をしている。また、季節に応じた飾りつけやお花を飾る等して、季節感を出すようにしている。	季節を感じる飾りつけや花が飾られている。共有の空間は天井が高く、大きな窓があり採光が十分に取入れられている。また、四季折々の風景が感じられ、心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室になっていて、自由に独りになることができる。ホーム内を自由に散歩でき、思い思いに過ごしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持ってきていただきながら、継続して暮らしていけるよう支援している。希望があれば、お部屋に鉢植えを置いてお世話を楽しむことができる。	馴染みの物を持ち込んでおり、それぞれの利用者に合った居室となっている。ベット等の家具の配置は利用者に合わせて配置しており、安心して過ごしやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計となっており、車椅子でも自由に移動することができる。また、見守り等をしやすい設計となっている。		